

第47回 武雄市短期経済観測調査（たけお短観）の結果について

下記のとおり「第47回武雄市短期経済観測調査（たけお短観）」を実施し、結果をとりまとめましたので、お知らせします。

結果のポイント

現況のDI値は、新型コロナウイルスの影響や原材料費高騰などの影響により、観光業以外のほとんどの業種で前回から横ばいまたは悪化している。
今後1月から3月にかけての見通しについては、物価高騰のさらなる深刻化や収束がみえないコロナ禍による閉塞感などから、さらなる悪化を懸念する声も多く厳しい見方が続いている。

【武雄市短期経済観測調査（たけお短観）結果】

令和4年12月調査

	前回調査		調査数	今回調査		
	A 現況 (R4.9)	見通し (R4.10-12)		B 現況 (R4.12)	(B-A) 前回現況 との対比	見通し (R5.1-3)
総 合	-29	-11	90	-29	0	-24
農業	-70	-60	9	-67	3	-44
建設業	0	-20	10	-20	-20	-30
製造業	10	0	7	14	4	0
卸売・小売業	-40	-12	24	-42	-2	-21
観光業	-50	0	8	13	63	0
飲食業	-44	22	10	-40	4	-20
サービス業	-10	-5	22	-27	-17	-36

- 調査目的 本市経済の景況感をよりの確に把握するため
- 調査対象 武雄市内事業所 100箇所（業種別内訳は上表参照）
- 調査方法 オンラインアンケート、FAX、電話等による調査
- 調査内容 (1)現在の景況感：良い、普通、悪いのいずれかを回答
(2)3ヵ月後の見通し：良くなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答
- 集計方法 (1)現在の景況感(2)3ヵ月後の見通しについて、それぞれ回答数の構成比を求めた上で「良い(良くなる)」の構成比から「悪い(悪くなる)」の構成比を引いて「現況DI」、「見通しDI」として指標化しました。
例えば、現在の景況感の「良い」が10%、「普通」が40%、「悪い」が50%の場合は、-40となります。
「DI」(Diffusion Index、デフージョン・インデックス)は、企業や業界の景況感などを数値化した指標の事で、日本銀行の「全国企業短期経済観測調査」(日銀短観)などで用いられています。